

令和7年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

実施機関名(主事業の実施機関名)	豊橋市
ふ り が な	とよはしりつつじがおかほくいんせいびじぎょう (とよはしこうきょうけんちくがくせいちやれんじこんぺていしょん)
1. 事業(施策)の名称	豊橋市立つつじが丘保育園整備事業 (とよはし公共建築学生チャレンジコンペティション)
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	令和 4 年 4 月 15 日 ~ 令和 7 年 2 月 28 日
災害枠で推薦の場合	(災害発生日) 年 月 日 (災害名)
3. 事業費(工事費)	660 百万円
4. キーワード	地域の風土とともに育つ保育園、木造・木質化、学生コンペ
5. 事業概要	本事業は、老朽化し狭あいとなった既設保育園を移転新築整備したものである。 0・1・2歳児を対象とする公立保育園として整備する当建築計画においては、「とよはし公共建築学生チャレンジコンペティション」による、公募でのアイデア提案、計画案の具体化、設計への関与といった学生の主体的な参画を通し、魅力的な建築アイデアを施設整備に反映した。

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(b) 木造架構など構造計画の工夫 (d) 学生コンペで選考した建築アイデアを設計に反映	(e) 学生コンペ関連イベント、選考の過程をインターネットで完全公開 (d) 学生コンペによる柔軟な建築アイデアを実現する取組 (i) 計画・設計段階に学生が主体的に関与
アピールする 2)「秀でた成果」	(a) 地域の気候風土を積極的に取り込む建築空間において、自由で多彩な活動を誘発する保育環境 (e) 周辺住環境配慮した新たな景観創出 (i) 国産材による木造・木質化	(a) 建築テーマとした「地域の風土とともに育つ保育園」をより魅力的に具現化 (i) 公共建築営繕業務に関する若者の認知度増進と関心の向上

7. 特にアピールしたい点
本施設は「地域の風土とともに育つ保育園」を建築コンセプトとし、東三河の地域産材(あいち認証材)を中心とした国産木材による木造木質化の建築空間に、温暖な地域の気候や身近な自然環境を積極的に取り込んでいる。保育室や園庭といった屋内外の保育環境を中間領域となる『縁側』で緩やかにつなぐことで、子どもたちの自由で自発的な活動を促し多彩な保育を提供できる“しかけ”を建築計画にプログラムした。 また当施設の建築計画は、全国 114 組の学生提案から段階的に選考された建築アイデアをもとに、提案者である学生自らが関係者との意見交換や建築家アドバイザーの指導助言を通し、公共建築整備事業の企画・設計段階のプロセスに主体的に関与する「とよはし公共建築学生チャレンジコンペティション」の取組により実現したものである。

8. 事業を代表する写真及びキャプション



■ 地域の風土とともに育つ保育園

0・1・2歳の乳幼児を対象とした保育園である。乳幼児期の子どもたちが初めて社会に触れ、発達段階の異なる一人ひとりの子どもたちの興味や関心に寄り添いながら、自発的な活動を引き出す保育空間を目指した。

軒下には風が通り、陽だまりを感じ、季節の移ろいを肌で感じられる。幼い子どもたちにとって、この園での体験が“地域の風土”の記憶として刻まれていく。東三河地域の自然や気候と調和しながら、子どもたちが五感を通じて風土を感じられる場とした。

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

■ 建築諸元

主要用途：認可保育所（通常保育 0, 1, 2 歳児(定員 80 名)、一時預かり保育室及び病児保育室併設）

敷地面積：1,832.70 m² 構造規模：木造2階建て

建築面積：895.32 m²

延べ面積：907.16 m²（園舎 895.50 m² 自転車置き場 11.66 m²）

■ 事業経緯

令和4年 4～10月 建築計画提案・企画（とよはし公共建築学生チャレンジコンペティション）

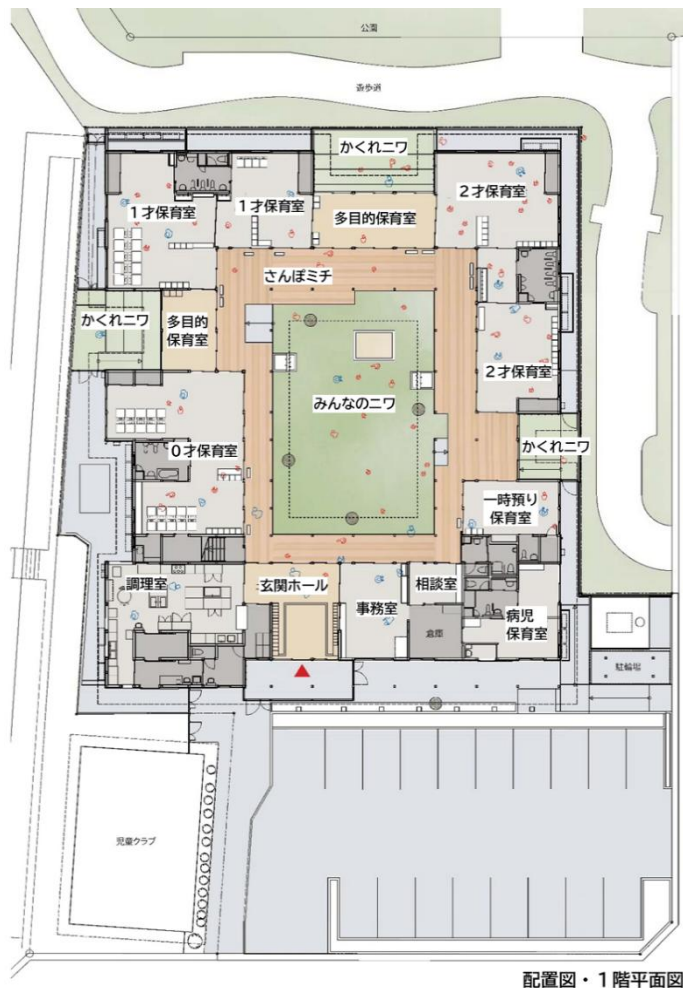
令和4年 11月～令和5年9月 基本・実施設計

令和5年 12月～令和7年2月 建設工事

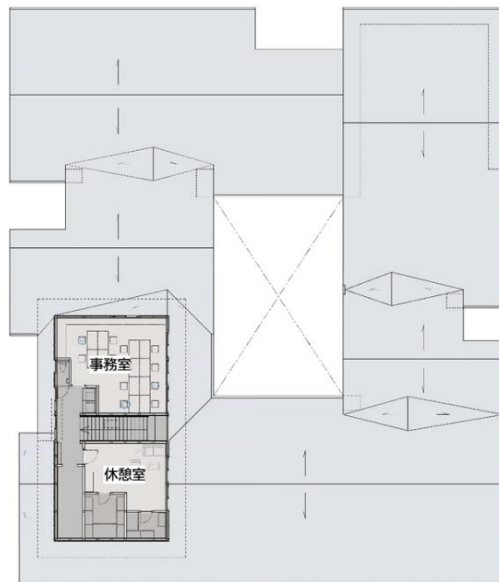
9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

■ 配置・平面計画

「みんなのニワ（中庭）」を中心として回遊する「さんぽミチ（回廊）」は、子どもの発達段階に応じてそれぞれ配置した保育室の『縁側』となる。また、外部への抜けとなる空間として分散配置した「かくれニワ（小庭）」は、各ゾーンのバッファとして子どもたち一人ひとりに寄り添う小空間となる。中間領域となる『縁側』は子どもたちの“動～静”と環境の“外～内”をシームレスにつなぎ、子どもたちの自発的な活動と多彩な保育活動を誘発する。「さんぽミチ」「みんなのニワ」「かくれニワ」は、“地域の風土とともに育つ保育園”のしかけである。



配置図・1階平面図



2階平面図

中庭を中心とした口の字型の配棟計画は、外部に対するセキュリティを高めるとともに、園内のどこにいても子どもたちを見守ることのできる安心・安全な保育環境となっている。

また、保育諸室を公園や遊歩道のある側に寄せ敷地北側に配置した園舎は、近接する住宅地との適度な離隔により相互のプライバシーを確保した。

■ 「みんなのニワ」を中心に回遊する「さんぽミチ」



保育室の縁側となる「さんぽミチ」は、穏やかな季節には建具を開放することで隣接する保育室と一体のスペースとなる。軒が深い半屋外空間として、天候に関わらず自然を感じることができる子どもたちの体験・発見の場である。



9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

■ 気候の変化を享受する開かれた木架構と、東三河産材による内外装



地域の温暖な気候を積極的に取り込むため、軒をのびし開かれた構えをつかった。保育室とさんぽミチをひと屋根で覆う最大梁行17mの小屋組みをトラスで構築し、梁せいを抑えた柱のない安全で開放的な保育空間を確保している。また梁・桁下端をFL+2.1mとし、ヒューマンスケールで子どもたちにとって日常の落ち着きのある生活環境を提供する。園舎は木造・木質化のすべてに国産材を使用、内外装の仕上げ造作、木製の家具・建具などの多くに東三河の地域産材を採用した。低層で温もりのある外観は、周辺の住環境に溶け込んだ新たな「まちの景」を創出している。



■ とよはし公共建築学生チャレンジコンペティション

本事業は、コンペで選考された学生がアドバイザーの指導のもと、公共施設整備の企画・設計段階のプロセスに、建築計画提案者として自ら主体的に参画する機会を提供する取組とともに実施した。

「とよはし公共建築学生チャレンジコンペティション」は、建築を志す若者に公共建築整備の魅力を伝え公共建築に関わる仕事に興味を持ってもらうとともに、このプロセスに純粋に向き合う学生たちの姿を通し、公共建築発注者である行政技術者が、公共建築整備の企画・設計段階における本来の役割と業務の魅力を再認識する機会となることを期待した取り組みである。

本施設の特徴である「みんなのニワ」「さんぽミチ」「かくれニワ」を骨格とした基本プラン、小屋組みを現し軸組を真壁工法としたシンプルで開放的な木造・木質化の表現、切妻が連続する屋根形状や建物を低く抑えた周辺の街並みと調和する建物外観は、学生の建築アイデアから実現したものである。

